学校規模適正化検討委員会設置の背景

〇桜井市では、人権尊重の精神を培うことを基盤として、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな幼児・児童・生徒の育成を目指しています。未来を担う子供たちにどのような力を培うのか、更に多様で複雑化する価値観や意識の中で、社会で主体的に「生きぬく力」をどのように育むのかが、教育に課せられた課題です。

〇今後の教育において、一方向・一斉型の授業だけでなく、子供たちが自ら課題を発見し、主体的に学び合う活動など、協働的な学習を通じて、意欲や知的好奇心を十分に引き出すことが求められています。しかしながら、学級の児童・生徒数があまりにも少ない場合、班活動やグループ分けのパターンや協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じることから、こうした新たな時代に求められる教育活動を充実させることが困難になるといった課題もあります。

〇少子高齢化が進む中、本市においても児童・生徒の減少が著しい状況にあり、市内各学校のうち、総クラス数が法令上適切とされる基準に満たない小規模校が多く存在する状況となっており、今後もこの傾向は加速されることが予想されます。

〇学校の小規模化が進む中、児童・生徒にとって「好ましい教育環境」を整えることは、教育の大きな課題となっています。また、この問題は社会教育や地域コミュニティをはじめとする、地域の学校を核とした全般に関わる問題であることから、まず、その目標とする方向性をまとめ、全市レベルで取り組みを推進していくことを目的として、基本方針を作成することが必要となります。

学校規模適正化検討委員会の設置目的

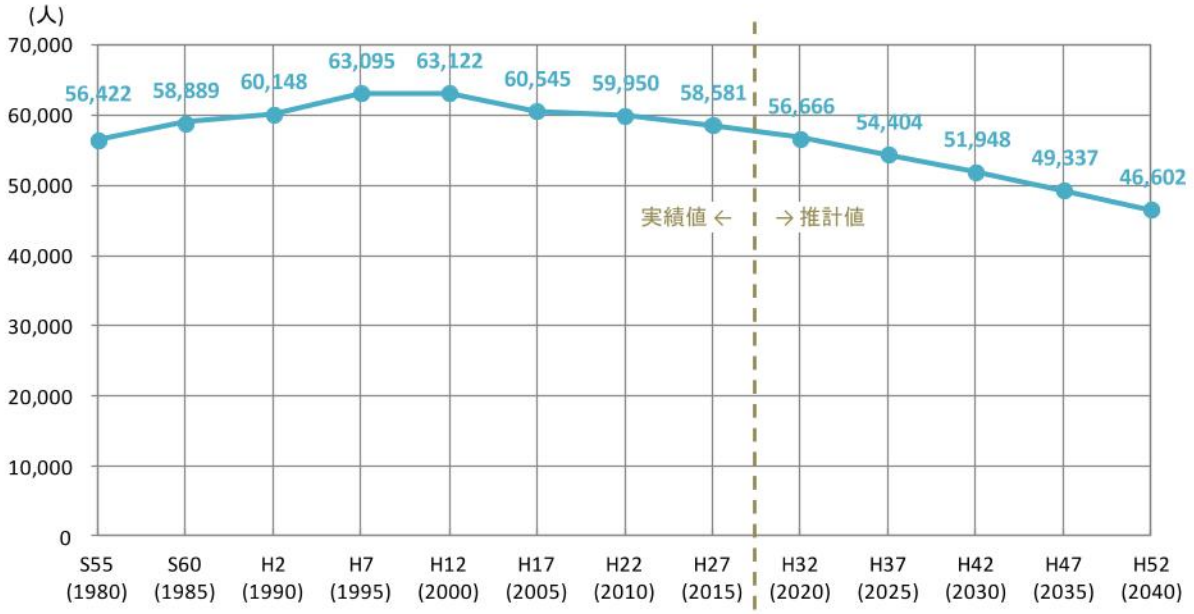
〇小・中学校の現状と課題を分析し、適正規模・適正配置について検討・審議し、「桜井市の学校の適正規模・適正配置等に関する基本的な考え方」をまとめます。

〇「桜井市小・中学校規模適正化及び適正配置に関する基本方針」を策定し、その後、基本方針をもとに全市的に基本計画を立て取り組みを進めていきます。

桜井市の学校をとりまく状況

1. 総人口の推移

桜井市は昭和 31 年の市制施行以来、大阪府や県内の主要都市に近いこともあり、安定して人口が増え続けてきましたが、全国的に人口減少や超高齢社会が進む中、平成 12 年の 63,122 人をピークに、平成 22 年には約６万人に減少しており、平成 52 年（2040 年）には約 46,600 人になるという推計結果が示されています。



（出典）実績値：総務省「国勢調査」、推計値：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」準拠

図 3.1.1 総人口の推移

2. 小中学校の立地状況

桜井市には、11 の小学校と４つの中学校が立地しています。

表 3.1.1　校区一覧

中学校(4)	小学校(11)
桜井	桜井、城島、安倍、桜井南
桜井東	朝倉、初瀬
桜井西	大福、桜井西
大三輪	三輪、織田、纒向

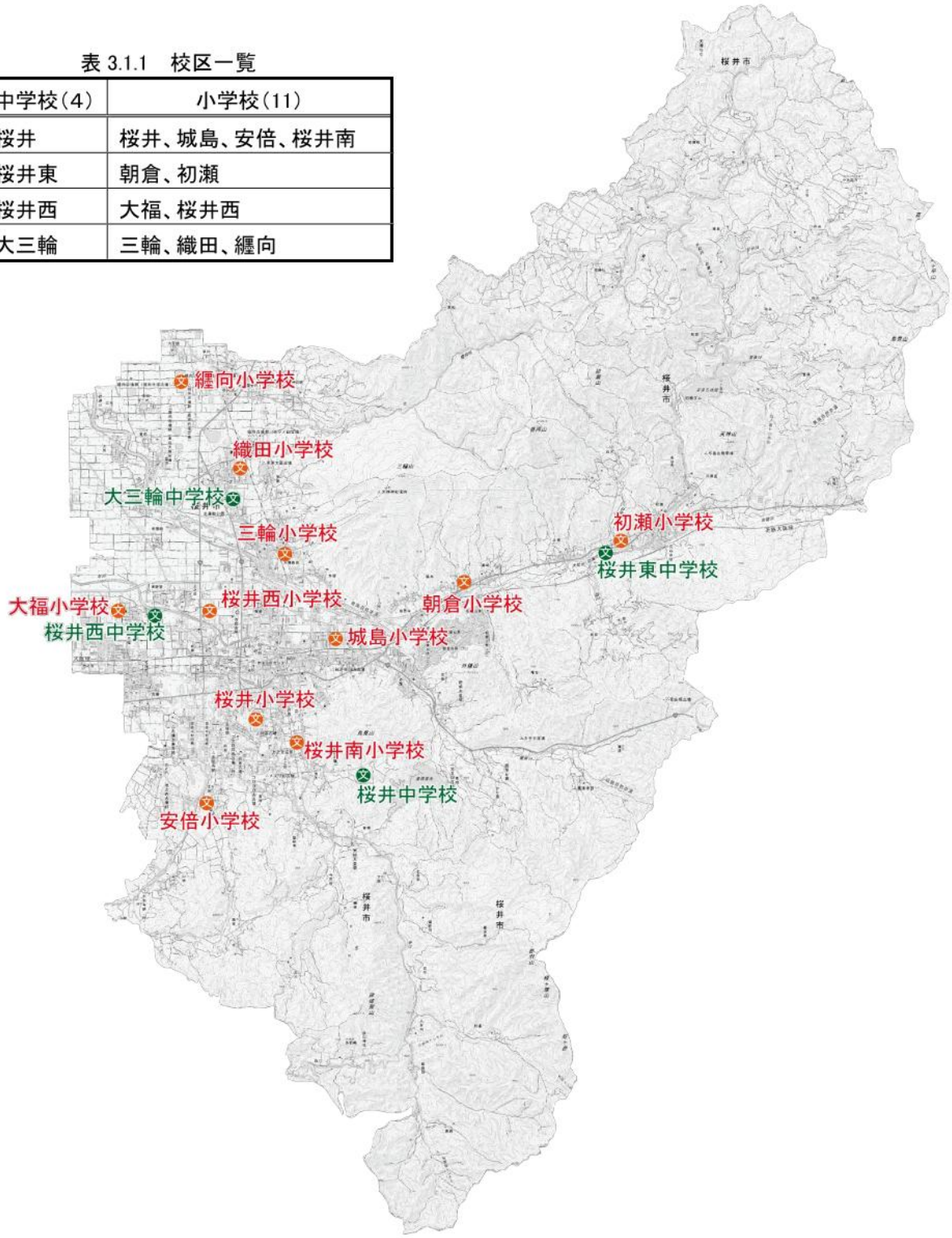


図 3.1.1　小中学校の立地状況

3. 児童生徒数・学級数

3.1　現在の児童生徒数

桜井市には小学校 11 校・中学校４校があり、小学生 2,919 人・中学生 1,385 人が通学しています。

表 3.1.1　校区一覧

	児童・生徒数	学校数	学級数
小学校	2, 872 人	11 校	110
中学校	1, 358 人	4 校	42
合　計	4, 230 人	15 校	152

※平成 29 年５月１日現在・特別支援学級を含まず

資料：桜井市教育委員会資料

3.2　児童生徒数の推移

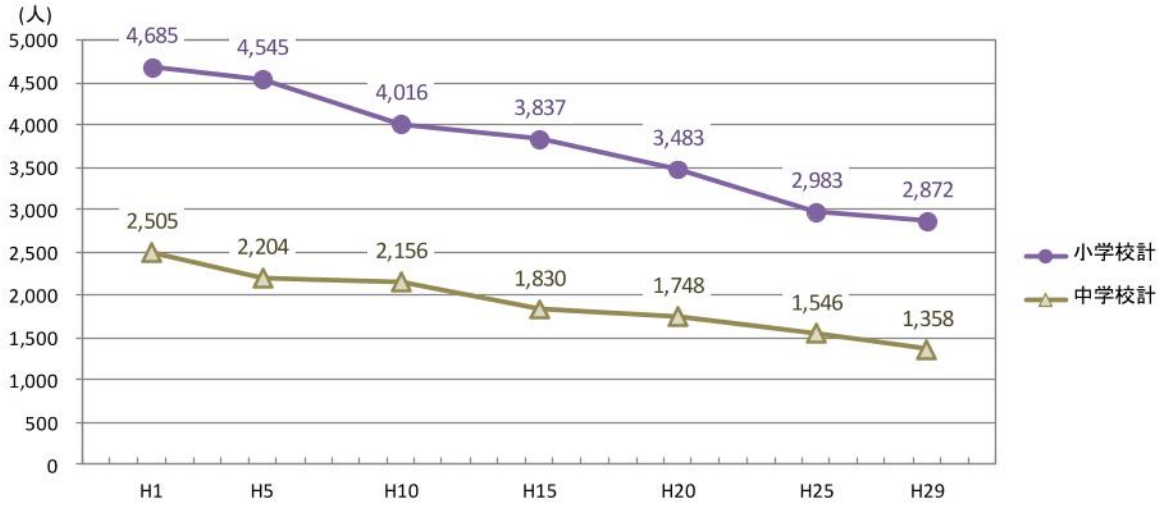
3.2.1.　市全域

平成元年に 7,190 人いた児童生徒数が、平成 29 年では、4,304 人と約 40%減少しています。

表 3.2.1　児童生徒数の推移

	H元年	H10 年	H15 年	H20 年	H29 年
小学校	4, 685	4, 016	3, 837	3, 483	2, 872
中学校	2, 505	2, 156	1, 830	1, 748	1, 358
合　計	7, 190	6, 172	5, 667	5, 231	4, 230

資料：桜井市教育委員会資料

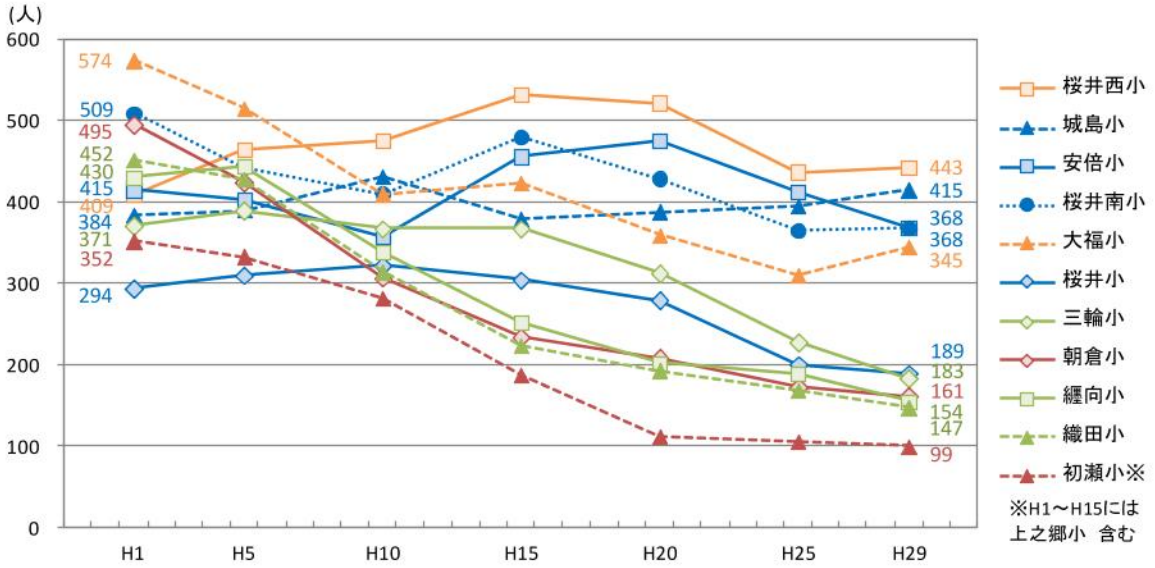


資料：桜井市教育委員会資料

図 3.2.1　児童生徒数の推移

3.2.1. 小学校

城島小学校及び桜井西小学校を除いた、すべての小学校において、平成元年以降、児童数が減少しています。特に、朝倉小学校及び初瀬小学校、織田小学校、纒向小学校は、平成 29 年の児童数が平成元年の半分を下回っている状況にあります。

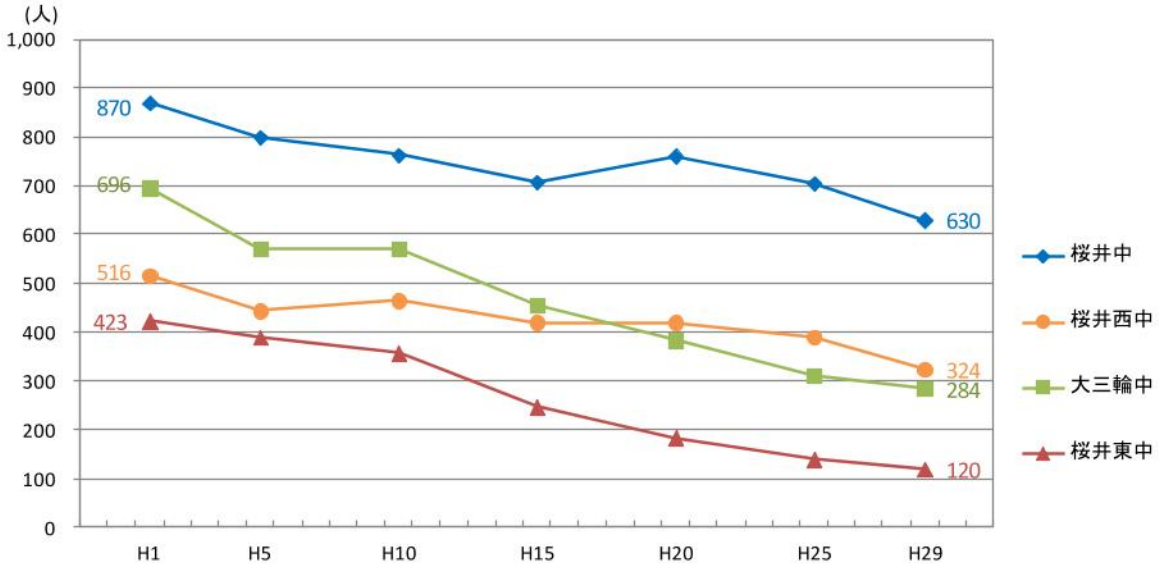


資料：桜井市教育委員会資料

図 3.2.2 小学校の児童数の推移

3.2.2. 中学校

すべての中学校において、平成元年以降、生徒数が減少しています。特に、桜井東中学校及び大三輪中学校は、平成 29 年の生徒数が平成元年の半分を下回っている状況にあります。



資料：桜井市教育委員会資料

図 3.2.3 中学校の生徒数の推移

表 3.2.2　小中学校別児童生徒数の推移

学 校 名		H元年	H10 年	H15 年	H20 年	H29 年
桜井中	桜井小学校	294	322	304	280	189
	城島小学校	384	431	379	388	415
	安倍小学校	415	358	456	476	368
	桜井南小学校	509	410	480	429	368
桜井東中	朝倉小学校	495	307	234	209	161
	初瀬小学校	279	229	148	112	99
	上之郷小学校	73	53	39	－	－
大三輪中	三輪小学校	371	367	367	313	183
	織田小学校	452	314	223	193	147
	纒向小学校	430	339	252	202	154
桜井西中	大福小学校	574	410	423	359	345
	桜井西小学校	409	476	532	522	443
	小学校計	**4,685**	**4,016**	**3,837**	**3,483**	**2,872**
中学校	桜井中学校	870	763	708	761	630
	桜井東中学校	423	357	247	184	120
	大三輪中学校	696	571	455	383	284
	桜井西中学校	516	465	420	420	324
	中学校計	**2,505**	**2,156**	**1,830**	**1,748**	**1,358**
合　　計		**7,190**	**6,172**	**5,667**	**5,231**	**4,230**

資料：桜井市教育委員会資料

3.3　学級数及び１学級あたりの児童生徒数

3.3.1.　小学校

11 校のうち６校において、１学年あたりのクラス数が１～２クラスとなっています。１クラスあたりの児童数は 16.5 人から 31.9 人と大きな差が生じている状況にあります。

表 3.3.1　小学校別学級数

	学校名	クラス数	1学年あたりのクラス数	児童数	1クラスあたりの児童数
1	桜井小学校	7	1.2	189	27.0
2	城島小学校	13	2.2	415	31.9
3	安倍小学校	13	2.2	368	28.3
4	朝倉小学校	7	1.2	161	23.0
5	大福小学校	14	2.3	345	24.6
6	初瀬小学校	6	1.0	99	16.5
7	三輪小学校	7	1.2	183	26.1
8	織田小学校	7	1.2	147	21.0
9	纒向小学校	7	1.2	154	22.0
10	桜井西小学校	16	2.7	443	27.7
11	桜井南小学校	13	2.2	368	28.3

資料：桜井市教育委員会資料（平成 29 年 5 月 1 日現在）

3.3.2.　中学校

すべての中学校において２クラスが確保できている状況にあります。１クラスあたりの生徒数は 20.0 人から 37.1 人と大きな差が生じている状況にあります。

表 3.3.2　中学校別クラス数

	学校名	クラス数	1学年あたりのクラス数	生徒数	1クラスあたりの生徒数
1	桜井中学校	17	5.7	630	37.1
2	桜井東中学校	6	2.0	120	20.0
3	大三輪中学校	8	2.7	284	35.5
4	桜井西中学校	11	3.7	324	29.5

資料：桜井市教育委員会資料（平成 29 年 5 月 1 日現在）

文部科学省ホームページより抜粋

	小規模化		大規模化	
	メリット	デメリット	メリット	デメリット
学習面	○児童・生徒の一人ひとりにきめ細やかな指導が行いやすい。	○集団の中で、多様な考え方に触れたり学びあう機会、切磋琢磨する機会が少ない。 ○学級間の相互啓発がなされにくい。	○集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力をさらに伸ばしやすい。	○全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。
	○学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。	○学校行事や集団教育活動に制約が生じやすい。 ○中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい。 ○児童・生徒数、教職員数が少ないため、多様な学習・指導形態を取りにくい。	○学校行事や集団教育活動に活気が生じやすい。 ○中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しやすい。 ○児童・生徒数、教員数が多いため、多様な学習・指導形態を取りやすい。	○学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しにくい。
		○部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。	○多種の部活動等の設置が可能で選択幅が広がりやすい。	
生活面	○児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ○異学年間の縦の交流が生まれやすい。	○クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 ○集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。 ○切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。	○クラス替えがしやすいことから、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい。 ○切磋琢磨することを通じて、社会性や協調性、たくましさ等を育みやすい。	○学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい。
	○児童・生徒の一人ひとりにきめ細かな指導が行いやすい。	○組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。	○学校全体での組織的な指導体制を組みやすい。	○全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。
学校運営面	○全教職員間の意志疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。 ○学校が一体となって活動しやすい。	○教職員数が少なく、バランスのとれた配置を行いにくい。 ○学年別や教科別の教職員同士で、相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい。 ○一人に複数の校務分掌が集中しやすい。 ○教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい。	○教員数が多いため、バランスのとれた教職員配置を行いやすい。 ○学年別や教科別の教職員同士で、相談・研究・協力・切磋琢磨等を行いやすい。 ○校務分掌を組織的に行いやすい。 ○出張、研修に参加しやすい。	○教職員相互の連絡調整が図りづらい。
	○施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。	○子ども一人あたりにかかる経費が大きくなりやすい。	○子ども一人あたりにかかる経費が小さくなりやすい。	○特別教室や体育館等の利用の面から、活動に一定の制約が生じる場合がある。
その他	○保護者や地域社会との連携が図りやすい。	○PTA活動等における保護者一人あたりの負担が大きくなりやすい。	○PTA活動において、保護者の負担を分散しやすい。	○保護者や地域社会との連携が難しくなりやすい。